



本物の「笑顔まんかい」の平井小にするために！

12月7日（水）に人権集会をしました。11月から12月にかけて各学級で進めていた人権学習のまとめの取組です。今年度は、児童会で話し合った、「自分たちの生活の中の課題」をもとに6年生の有志がロールプレイ（子供たちは「劇」と呼んでいます）をしてくれました。課題場面を見て、何が問題なのか、どうすればいいのかを自由に話し合い、提案するのです。

児童会が見出してくれた課題は、3つです。

①発表している人の思いを聞き、心を込めてお返ししよう。

←授業中や集会での発表に対し反応を返そうとしない人がいて、さびしい思いをすることがあるから。

②進んであいさつをしよう。

←あいさつをしているのにあいさつが返ってこなくて、さびしい思いをすることがあるから。

③自分の思いを言葉で伝えよう。

←自分の気持ちを上手に言葉にできずに、つい「知らんし」「ウザい」など短い言葉で言ってしまう、相手を傷けてしまったり、それがきっかけで言い合いになってしまったりすることがあるから。

たとえば、ロールプレイの中で、会話に横入りしてきた子に、「ウザい」と言った場面では、『「ちょっと待って。後で話そうね』とさえいいと思います』とか『「一緒に話そう』とさえいいと思います』など、よりよい人間関係を築くための提案が低学年の子供たちからも出され、素晴らしいと思いました。

私からは、「自分の目と耳と心を信じる」「今と未来を信じる」「人を信じる」という話をしました。予断と偏見にとらわれないこと。過去にこだわらず、人はよい方に変われるという信念と持つこと。そして、自分には様々な問題を解決する力があると信じ、行動に移すことの大切さを伝えました。

下に、子供たちの学習のふり返しをご紹介します。この内容も含めて、ぜひ、ご家庭でも話題にさせていただき、お子さんの理解を深めるお話をさせていただければ幸いです。

【人権学習のふりかえり】

3年生くらいの時に、おかしいことを「おかしい」と、言いました。でも、返ってきた言葉は、「おかしくても、それを『おかしい』と言わないのが友達」みたいな言葉でした。その時から、それはずっと疑問に思っていました。この授業を通して、やっぱり「おかしいことは、おかしい」と言い合える中になりたいと思いました。そして、差別などをしている人がいたら、どうしたら解決できるか考え、話し合っていきたいです。

【人権集会のふりかえり】

今日、校長先生の話聞いて、自分のことを「信じる」ことが大事だと分かりました。伝えないと心がスッキリしないし、伝えずにこのままでいたら相手がまた違う人にも同じ事をくり返してしまうかもしれないので、これからは、自分の目と耳と心を信じ、思いを伝え、勘違いからの差別やいじめなどをなくしていこうと思いました。

